

# 野菜栽培一覽(2) (道内向)

## 根菜類の部

種類	作型	播種期	反当3要素量(kg)	栽培距離(cm)	反当播種量(t)	収穫期	栽培の要点
だいこん	甘日根	4下~5下	チ 13	幅 30~45 間 3~9	5.5~6.3	6上~6下	みの早生大根は早播きするとトウが立つから7月10日以後にまくのが安全である。宮重大根は根身が土の上に抜きでるが作土の浅いところでは高畦とする。ダイコンバエの被害のあるところでは、播種期にアルドリンあるいはヘプタクロールの粉剤を畦に施し、なお8月中旬から7~10日おきに葉面散布を行なって防除する。十字花植物のネコブ病にかかると奇形ができるので病菌のない畑に作る。ウイルス病にかかっている株は早期に抜き取り処分する。
	時大無根	4下~5下	リ 10	幅 45 間 15~30	5.5	6中~7中	
	夏大根	7中~8上	カ 9	幅 60 間 23~30	1.1~1.5	7上~10上	
	秋大根	7末~8上	チ 19 リ 11 カ 11	幅 60~82 間 30	0.73~0.9	10上~10下	
かぶ	春作	4末~5上	チ 10 リ 7.5 カ 7	幅 45 間 10	0.9	6上~8上	寄居かぶは春まきによく、葉がやわらかいので利用度が高い。札幌かぶを春まきしておくで、7、8月に利用できる。8月上旬から大根同様にダイコンバエの防除が必要である。紫かぶは貯蔵に強いので冬期間の貯蔵野菜としてよい。栄養価も大根より高いものである。十字花植物のネコブ病にかからないように病菌のない畑に作る。
	秋作	7下~8上	チ 15 リ 11 カ 10	幅 60 間 20~30	0.6	9下~10下	
ごぼう		5上	チ 18 リ 12 カ 15	幅 60 間 15	2	8下~10下	沖積土などの土の深いところがよい。空知以南の温いところでは春掘りもできる。大浦ごぼうは割合土の浅いところでもできるので自家用としてよく、またきざみごぼうとして加工用にも向くようである。
にんじん		5上~6上	チ 15~17 リ 10~11 カ 13~15	幅 45~60 間 12~15	3	8中~10下	輸入種は早まきするとトウ立ちが多くなるから、国内種の早まきよりも10日以上おくらせた方が安全である。根身の肩に紫や緑の色がつかないように早期に浅く培土し、とぎどき手なおしておくことが大切である。除草剤にはクロロIPCやプロバジンを使うとよい。
たまねぎ		3下~4上(温、冷床) 5中・下(定植) 4下(直播)	チ 23~28 リ 18~20 カ 23~28	幅 45 間 12~15 (直播の場合2行まき)	1.5~1.8	8下~9中	沖積土で排水がよく保水力のある肥沃地がよい。玉葱作付面積の少くとも3割は苗植えをした方が経営上よい。輸入種は苗植えをした方が安全である。タマネギバエの被害が多くなったので、播種あるいは移植前に作条にV.C粉剤を10a当り9kgを散布し、さらに発芽あるいは移植後7日おきにBHC粉剤を4kg/㎡散布する。なお、被害の多い場合はE.P.N乳剤1,500倍液を10a当り200lを散布する。被害株は土中深く埋める。黒腐病、べと病、ポトリチス斑点病の防除をよくする。採種畑にはビニールの屋根覆いをして湿害を防ぐようにする。除草剤にはクロロIPCを播種直後または2、3葉期に散布するとよい。
にんにく		9中・下	チ 17 リ 11 カ 17	幅 55 間 12 (2行植え)	225kg (29,700片)	8上	鱗茎を1片ずつ(7.5g前後のもの)植込む。花梗は発生初期に摘み取る。新地帯で大栽培する場合は加工業との結びつけて行なわないと販路にこまる。自家用として少しずつ植えておくとうい。
ゆかり	木子 種球	10上・中	チ 14~17 リ 9.5~11.5 カ 14~17	幅 45 間 4.5 幅 60 間 18	27,000球 9,000	10上~11下	木子は1畦2、3行植とする。追肥は早春に行なう。花蕾は発生とともに摘み取る。球を植込むときは必ず消毒(ボマゾールアブサンで粉衣する)して「サビ」がつかないようにする。ポトリチス病防除のため葉の開き出したときから数回銅剤などを散布する。
ながいも		5上	チ 20~25 リ 13~17 カ 20~25	幅 60~75 間 15~35	11,000箇 ~4,500	10上~11上	むかごを1、2年培養したものを種芋(1箇のまま)とすると収量を増す。親芋を9cm位に切ったものを、温床で催芽して植えると収量を増す。催芽の程度は小粒の大豆位が最適である。芋を切ったときは切口に消石灰を塗り直ちに伏せ込んだり、植えたりする。手竹は長いほど増収する。空知以南の温いところでは春掘りしてもよい。
じゃがいも		5上	チ 20 リ 13 カ 20	幅 65~70 間 45	90kg	8上~9下	浴光催芽をして植付け、早掘りして畑の後作を利用した方がよい。ウイルス病や輪腐病は発見次第抜取り処分する。疫病の防除を完全にします。 [完]